

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373400898		
法人名	社会福祉法人 恵神会		
事業所名	グループホーム 神庭荘		
所在地	岡山県真庭市組573番地		
自己評価作成日	平成23年1月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://f-keishinkai.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営理念に基づき 家庭的な雰囲気大切に、一人ひとりが利用者がグループホームで生活を送るにあたり、より 安心で安全な生活とは何かを個々のワーカが考えて、利用者の生活を支えています。 や・い・ゆ・え・よ (やさしく いたわって ゆとりをもって えがお よろこんで)の精神で介護をさせて頂いて おります。 豊かな自然に触れ合いながら共同生活をして心豊かに自立をし人間性の回復を目指していま
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に根差したグループホームとして理念を大切にした運営に取り組んでいる。入居 者一人ひとりを大切に暮らしの支援を心掛け、その時々状況や要望に応じた柔 軟な対応が行われている。また、グループホーム連絡協議会を3か月に1回行い各事業 所との交流を持ち現状の把握と向上に努めている。自事業所だけの質の向上にと止ま らず、地域全体で地域密着型サービスの底上げに取り組まれ、各事業所の意識向上 にも努力をされています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員が理解して確認し合えるようにして、事業所理念を大切にしている。日々見えるように事務所に掲示してあり実践に向けていけるように努力をしています。	理念を熟知する様努め、機会をみては理念の理解に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	徐々に介護度も上がり全員は外出できていませんが、納涼祭・祭り・慰問時等地域の方が来て頂けるイベントでは交流を図るよう努めております。いつでも来て頂けるような雰囲気を作るようにしています。	グループホームのほかに社会福祉法人として地域に根差した事業を展開しており地域の一員として交流が行われている。	体制上難しいことだとは思いますが、運営推進会議などを活用し、グループホーム独自の地域連携に取り組まれることを期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所希望の方の相談に対しては可能な限り対応できるようにしている。相談が緊急な場合は責任者に連絡が取れる体制を敷いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に4回開催をしている。地域の方・民生委員・家族会・真庭市の職員・神庭荘居宅・支援センター・デイサービスと話し合いを行う。事業実績報告・予定・要望等話し合いを行いよりよいGHIになるようにしている。	2か月に1回運営推進会議を実施し入所者と同じ昼食とってもらうなど実情への把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でも市の方に来て頂いている、3か月に1回はグループホーム連絡協議会を行い市の担当の方にも出席して頂いて連携をいいる。	定期的に会合を持ち市の担当者との交流を深め協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について荘内で研修をおこなっており職員の共通理解を行い不明な点はファイルなどを見て再度確認をしている。 ※少人数の介護はなれ合いになることの理解を知ってもらっている。	「やむを得ない」ののだろうか、また拘束のとらえ方などその都度話し合い研修などで理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について荘内で研修をおこなっており職員の共通理解を行い不明な点はファイルなどを見て再度確認をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についても荘内で研修をおこなっており職員の共通理解を行い不明な点はファイルなどを見て再度確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明内容を同じ席に置き説明者は2人で対応をしています。納得して頂き署名・捺印をしてもらっています。マニュアル整備をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にアンケート箱・用紙を設置しています。家族への月1回の連絡・電話・面会時等の時に家族に要望を聞いています。	来所の際直接お話しして意見や要望を聞きまた手紙などの対応も行い利用者、家族等の意見、要望の把握に努力されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を何時でも聞ける体制を作り聞くようにしている。モニタリングにはワーカー会議でも運営について意見が有れば聞けるようにしている。	介護のとらえ方、自立への介助、仕事上の悩みなどなんでも言える体制づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の疲労・ストレスの要因には気を配り明るくしゃべりやすい雰囲気を作り職員同士の人間関係を円滑にできるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には研修計画に基づき業務に支障のない範囲で出席している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1回はグループホーム連絡協議会を行い各事業所とも交流を持ちネットワークを作っている。また近くの施設の職員とも親睦をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より相談があった時点で本人と面談を行い施設の様子等見てもらう。本人・家族の不安を和らげる。いつでも連絡できる体制を作っている。責任者がいない場合も緊急時は連絡が取れる体制を敷いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を理解して、GH. 施設全体としてどのような対応ができるか真摯に話し合いを持つ。家族から相談要望があるとその都度対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状のサービスで本当に本人が満足されているかを常に考えて行動をしています。過・不足を考えながら日々気づきを伝達ノートを使い行っています。不足分はいかに資源の開発ができるか検討して素早く補うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間・空間を共有しているという認識で生活を行っている。ごく当たり前で、自然体な関係で人間関係が築けていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の体調のこと、生活のことを電話連絡をしている。外出・等を家族に無理のない程度にお願いをしている。共に本人を支える関係を築いていく努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人の面会を継続的できるように無理のない程度で働きかけている事もあり、近所の方等が年に数回は継続的に来て頂けている。	近所の人や知り合いが何気なく訪問される事があり馴染みの継続が保たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格・相性・身体的な事などを総合的に把握して必要に応じて席替え・和室で休まれている位置等を変え、係り合いを持ち支えるようにしている。日々の変化等も気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設移動(特養)・長期入院時は情報提供を欠かさず行っている。長期入院になる場合でもGHでできる限り相談にのれるように心がけて対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聴き利用者の気持ちに寄り添い実現可能な方法で家族にも負担のない程度で本人の希望を伝えるようにしていこうと思う。	一緒に生活する中で入居者同士の話の中から本人の希望が聞き取れ意向に沿った対応するなど一人ひとりの希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりどのような生活を送って来られたかということ聞き、また生活の中の会話の中などから暮らし方・考え方を個別に理解するように努めてサービスに反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握に努め細かい行動等を見逃さず常にアセスメントを行うという目で努力している。そしてそのアセスメントに基づき個別計画に反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を個人がGMと計画を練って訪問してくれたとき様子を伝えてそのことも計画に入れるようにしている。柔軟に対応気できるようにしている。	担当者を中心に意見を出し、本人の様子を伝え家族と連絡を密に取りながら現状に即した介護計画に取り組んでいる。	細かなところづかい、介護職員の日常の気づき、家族との連携など、いろいろな面で十分すぎるくらいのケアの実践が窺えました。本当に必要なものは何かを今一度考え更なる質向上に期待いたします。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	伝達ノートを活用し日々の変化・等を記録して気づき・伝達事項を確認して業務に入るようにしている。介護計画の見直しにも生かして行きたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険内サービスは基本において、ニーズのあるところは、管理者等に相談をして利用者個々にできるだけ対応するように多角的な物の見方で利用者によりよいサービスを提供できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で施設にボランティアの方が来てくれている時にはその場に参加をしていただいたりしています。地域資源の把握・発掘をできるだけ行いGHとの結びつきがどのように出来るか考えて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にしながら適切な医療を受けられるように関係を築いています。可能な限り受診のお手伝いを行っていますもちろん家族との連携で行います。	かかりつけ医や協力医による適切な受診が行われている。	現状を大切にしながら往診も取り入れていかれたらどうでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内での健康管理については主治医の病院に連絡を取り健康状態を維持できるように支援しています。受診などもその都度行えるように調整をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはGHでの様子などを記入して情報提供を行っている。また定期受診時にも受診者だけでなく入所者の様子など情報交換を行いよりよい関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望や意向を踏まえ、安心して納得してもらえるように随時意思確認を行い取り組んでいる。地域関係者にも現状を理解して頂くように努力をしています。	以前に看取りの経験があり、家族の希望があれば看取りも視野にいれた支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時についてもマニュアルがあり職員は熟知している。応急手当等緊急時の対応等荘内で勉強会があり参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成して職員にも徹底している。。またいつも緊急時の対応については、仕事に入る時には緊急時などはどのようにすればよいか等を考えて入っている。※今年度はGHで災害訓練を行い反復しています。	地形状土砂災害が想定され火災と共に災害の訓練を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格・尊厳とは何かを考えて対応をしている。又ワーカーも一人の人間であることを自覚して体調の自己管理を行い当日のワーカー同士で補いあいながら利用者の尊厳・誇り・プライバシーなど損ねないように対応している。	一人ひとりの個性に合わせた声かけや対応でその人らしい支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせ決定をしやすいような声掛けを行う色々な手法で利用者の意思決定をして頂くように働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHでは食事・排泄はある程度時間を設定しておりますが利用者が無理なようであればその方の希望に沿い支援していきます。長期にわたってそのような状況でない限り利用者のペースを重視して対応していますご家族にも様子をお伝えします		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみについて基本的には本人の意向に沿い行っている。強要はしないようにしている。整髪・入浴・口腔ケア・清潔等ある程度はお伝えして、して頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみであると言われる方が多いので準備段階での作業をしていただいたり、食器を片づけることのできる人は片付け・洗いものもしてもらっています。その作業を見て頂いている方もいます。	メニューを基本に入居者の食べたい物を取り入れながら毎日買い物に出かけ家庭的な雰囲気のある食事メニューで楽しい雰囲気が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を単位として考えて食事を考えています。栄養バランスを考えて食事を摂取してもらえるようにしています。不足気味な方については、食事形態(高カロリー食品)等を栄養士に方と話し合いをしてその方に合うような食品を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは食後行っています。口腔内から義歯が外せない方等は嗽等で対応しています。(緊急避難的に行う)義歯など洗える人は洗ってもらっています。洗えない方は介助にて口腔ケアを行っています。本人に合わせて介助をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助は本人のパターンを確認しながら又、当日の水分量・外気温等も考慮しながらかつ時間誘導などの複数の指標を持ちいて行います。本人のプライバシーなどに配慮しながら自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりに合わせた排泄パターンで自立への支援が行われている。	非常に細かいところまで気を配った排泄ケアに取り組まれています、介助者の自己満足ケアにならないように心掛けて下さい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表を毎日つけています。繊維質の多いもの・適度な運動・水分補給・センナ茶等を飲んで頂いています。3日排便の無い時は本人もちの下剤を服用して頂くようにしています。(かかりつけDrの指示のもとです。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2～3日に1回は行っている。入浴の時間帯はだいたい設定していますが、声かけを行い利用者が良いタイミングで入浴を行っています。あまり無理をせずに行っています。	一人ひとりの体調や様子に合わせて声かけし、また、浴室を温めておくなど、入浴し易いよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせ休息を取って頂いております。同じパターンではないその方に合わせた支援を行っています。安心して夜も休んで頂けるように昼間の様子等に合わせ就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Drの指示により処方された薬の内容を薬局より紙ベースで頂いている薬の内容について各担当者がファイルにまとめておりいつでも見えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換をするにあたり利用者の嗜好品・楽しみを聞きそれに向かいワーカーが支援していけるように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の家族に戸外に出かける時には声をしています。秋にはコスモスを見にいきました。お祭りの神輿が神庭荘に来たのでダンジリ・神輿を拝ませてもらった。希望を聞き外出したいと希望者にはできるだけ対応していますが介護度が上がり体力を見ながら対応しています。	天候や季節によって、また体調にも配慮しながら出来るだけ外出の機会を設ける様に心掛けている。毎日の食材の買い物にも行ける人は一緒に出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居前・入居時においても家族・本人・管理者・副主任と話し合い小遣い程度のお金を管理している。面会時等に目を通して頂く。PC・出納帳にて管理しています。家族に金額が少なくなった場合は連絡をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛にきた手紙は確実に本人に渡し返信したいというときは本人もちのはがき・切手を張る手伝いをして事業所に仮設のポストがあり投函している。電話などの時は電話を使い話して頂くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家である事と、共同生活を行う部分を大事にして壁には季節の物を貼り食堂には季節の花を生けたりしてちょっとした季節感を感じてもらおうようにする。	解放感があり明るい造りになっている。毎日天窓を開けて空気の入替えを行っており快適な居心地のよい空間づくりがされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルを置いており和室には横になれるスペースがあり居場所を変えることができる。当日の雰囲気等を考慮しながら思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各家(居室)には個人の馴染みの物があり居室の窓にはプライバシーに配慮をするようにしている。家のは入り口には個人で作成したものの暖簾をつけている。	馴染みの小物や植木鉢などおいてゆったりと暮らせる工夫がされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり利用者の「できる」を大切にしてハード面だけでなくソフト面も利用者が安全であることに配慮して自立した生活が送れるようにしている。		